

### 狂言発表会に備えて（6年生）

12月1日（木）に、6年生が、狂言発表会の会場である平之荘神社の掃除を行いました。たった1時間だけの清掃活動でしたが、自分たちがお世話になる平之荘神社の清掃を心を込めて行いました。



6年生が、心を込めて掃除をしました。



### 《11月28日（月）の狂言の稽古（『柿山伏』より）》



『秘すれば花』（世阿弥：『風姿花伝』より）ということばがあります。隠している物自体にはそれほど重要ではありませんが、隠すことによって何か効果が生まれると説かれています。『秘すれば花』は、芸事における心得を語ったことばです。

『秘すれば花』ということばを例にしながら、後見の所作について教えていただきました。



畑主が周りを見渡す時に、かがむと近い所を、上体を起こすと遠い所を見ているように表現しています。  
 （山口先生が）「何本ぐらい柿の木はありますか？」と尋ねられると、畑主担当は、「30本ぐらいです。」と答えました。よくイメージができています。





山伏が渋い柿を下に投げた際に、下にいた畑主にその柿が当たったシーンを、2人の息がピッタリ合った演技ができました。畑主の「あいた」というタイミングが大変上手でした。



狂言は、何も無いものがあるように表現するので、イメージをもつことが大事です。高い所を見る時は上体を上にします。近い所を見る時は下を見ます。6年生のみなさんには、イメージをもって体で表現してほしいです。そうすることで、説得力が出てきます。

## 山口先生に小舞（『宇治の晒』）を見せていただきました



子どもたちの稽古が早く終わったので、山口先生が小舞（『宇治の晒』）を見せてくださいました。小舞を通して、想像することの大切さを教えてくださいました。



舟に乗って櫓をこいでいる様子が伝わってきました。

### 《山口先生のお話》

みなさん、よく稽古をしていますね。先生が太鼓判を押しますから、思いっきり演じましょう。「どう思われるだろうか」という心配はしないようにしましょう。

あなたたちがやってきた努力は否定をしません。やってきたことに対して臆病にならないようにしてください。堂々としてください。

舞台は怖いものです。観ている側が気を遣ってしまうような、「大丈夫かな。」と観客に想わせてしまうようなことはしません。失敗をしても、堂々としておきましょう。

### 《リハーサルに向けて》

セリフをしっかり言いましょう。特に、「いやいや」「よーっ」「やー。」を曖昧にしないようにしましょう。小さく言ってしまうと、次のことばが生きてきません。「いやいや」「よーっ」「やー。」がいかに大事かを実感してください。